

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1890500083 | | |
| 法人名 | 医療法人 厚生会 | | |
| 事業所名 | グループホームさくら日和(ユニットさくら) | | |
| 所在地 | 福井県大野市中津川32-33 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 27年 10月 24日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福井県福井市光陽2丁目3番22号 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年11月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的で活気あるグループホームを作るため、2ユニット間の仕切りを無くし日光が入る大きな共有スペースを設けています。それにより入居者間や来訪者など多くの方々と交流できています。また、隣接する同グループのデイサービスとの交流や地域行事にも積極的に出かけ活気ある生活を送っています。医療的ケアとして、職員に看護職員を配置し、同グループにある24時間対応可能な訪問看護ステーション、医療機関との医療連携を行っています。医療連携により医療依存度の高い方の受け入れや、入居者が終末期となった場合にも住み慣れたグループホームの生活を続けられる体制を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造、平屋建ての近代和風の温もりある住まいであり、大きな窓から地元の山河や田園が見渡せる、のどかな環境である。同法人が経営する訪問看護ステーションやデイサービスセンターを併設していることで、その協力体制によりターミナルケアにも対応できるよう準備を整えている。また、利用者同士の幅広い交流を支援している。職員は、法人の基本理念である「まごころをもって、良質の医療と保健・福祉のサービスを提供します」をモットーに、常にケアの基本を踏まえつつ、笑顔で利用者の方を包み込むように寄り添っている。また、地域に根差した事業所を目指し、地域の小学校や婦人会との交流など、気軽に行き来できる関係を作るため、日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念に基づき職員全員で作成した事業所独自の理念を玄関に掲げ、職員は常にこれを意識して支援にあたっている。また職員一人一人の個人目標を設定し、日々のケアの振り返りやカンファレンスを通じて理解を深めている。 | 法人全体の理念とは別に、グループホーム独自の理念を掲げている。職員一人ひとりが理念の実現に向け、利用者の望む生活ができるように考えながら支援している。 | 利用者の尊厳や過去の生活を大切にしたいと願いグループホーム独自の理念を掲げている。更なる理念の具現化に向け、それらの理念を職員の具体的な個人目標につなぎ評価していく取組みに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事に積極的に参加する他、さくらグループの祭りには地域住民にチラシを配り大勢の方が来られる。さくらグループの職員が地域の婦人会に認知症に関する研修の講師として出席している。 | 法人全体で地域の祭りや文化祭、小中学校行事などに利用者と共に参加している。また事業所の祭りに住民を招待している。地域住民を対象とした健康相談会や介護相談会に講師を派遣している。 | 折にふれ地域に馴染むため努力している。地域密着型サービスとしてのグループホームが地域住民に理解されるよう、回覧板を利用するなどしての更なる広報活動に期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | さくらグループの職員が地域の祭りに毎年参加し健康相談や介護相談を行っている。施設見学に来られた方などへの介護相談も行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員として区長、民生委員、入居者家族、市職員を招き2ヶ月ごとに開催している。会議では入居状況や活動内容を報告し積極的な意見交換を行っている。また、委員から地域の情報を得て日々の活動に反映している。 | 2か月毎に平日の午後、家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。事業内容を報告し、事業所の行事への協力を得たり、地域の行事の情報を得て参加したりしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に留まらず、困難事例などについて気軽に相談できる関係を開設当初から築いている。 | 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加する他、相談などは随時電話で行っている。運営上の相談があるときには市役所まで出向いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は身体拘束の弊害について理解しており、身体拘束のないケアを実践している。玄関や居室の施錠は一切していない。入居者個々の行動を理解し、言葉かけや見守りを行っている。 | 防犯上夜間のみ玄関の施錠を行う。幹線道路沿いにあるため、玄関にセンサーチャイムを配備して安全確保している。「待つ」「後で」等の声かけは極力しないように職員同士で注意し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に関する研修に参加し学ぶ機会を作っている。言葉使いや介助方法に至るまで十分に注意し虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 開設後から研修機会に恵まれていないが、研修に積極的に参加する予定。責任者、管理者、個々の職員は前職場にて研修を受けている者もいる。家族等からの相談にはのっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご家族様には十分に説明し、ご理解のうえ同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の中で入居者の声を話している。各委員に意見や要望をお聞きして運営に反映させている。 | 家族の面会が日頃から多く、その時に要望や意見を聞き、速やかに対応しケアプランに活かしている。面会に来ることができない家族には、管理者が電話して意向を聞くなどしている。毎月個別に便りを発行して情報を発信している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月行う職員会議や日々の申し送り等で情報交換や意見交換を行い運営に反映させている。 | 管理者は毎月のグループホームの職員会議やユニットごとの会議の際に、職員全員の意見が反映されるように努めている。日々の業務の中でも随時職員の意見や相談を口頭で聞くようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の自己評価、管理者評価を行うとともに職員個々と面談し職員の意向を確認している。それ以外にも個々の相談は柔軟に受け入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画を立て全職員が参加できるようにしている。研修参加者は報告書を書き職員会議で発表してもらいスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 厚生会グループ内での会議や勉強会、グループ内事業所へ職員を派遣して研修するなどして質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者が不安や困っていることは、よく傾聴して安心していただけるよう努めている。また馴染みのある物を家から持って来てもらうよう家族にお願いしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前カンファレンスを行い本人の状態や状況、家族の思いを理解する。入居後は面会時などに生活の様子や活動内容をお話して安心、信頼関係が築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居申し込み時点で相談に乗るようにし、必要に応じた他サービスの説明や介護相談に乗るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は入居者一人一人の出来ること、やりたいこと、好きなことを把握して日常生活の上で必要な掃除や洗濯、買い物や食事作りなど協力しあい行っている。手伝って頂く際には、「お願いします、ありがとうございます」と声を掛け信頼関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者のほとんどの家族が頻繁に面会に来られることが本当に嬉しい。楽しい時間が過ごせるよう配慮させていただき、遠方の家族には電話で話す機会を持つようにしている。日々のことを月ごとにまとめ写真を添えて報告するようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前の生活の延長となるように、以前に利用していたデイサービスや馴染みの美容室へ出かけ、人や場所との繋がりを大切にしている。 | 事業所独自の方式で、入居前に利用者の馴染みの関係を家族に記述してもらい、職員で共有して毎日の生活の支援に活かしている。友人の訪問等は随時受け入れている。携帯電話や手紙、年賀状の支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 居室に居る事が少なく皆さんホールで過ごす事が多く、体操やレク、外出、行事、物作りなど企画し誘っている。とても楽しそうに過ごされている。仲の良い者どうし居室でお話していることもある。トラブルには仲裁に入り早期に解決するよう心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も引き続き相談にのることをお伝えしている。また、次の施設担当者やケアマネとも連携を図っていくようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時に本人や家族の希望や意向を聞いている。入居者の生活歴や性格などを把握し、思いを聞いたり言動から思いをくみ取るように努め、自分らしく心地よい生活を送ってもらえるよう援助している。入居者個々に担当職員を決めている。 | 普段の生活の中での関わりや言動、表情等から利用者の意向を把握し、職員間で共有し対応策を検討している。帰宅要求が強い時等は、家族に面会を依頼するなどしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や前任のケアマネージャー、サービス事業所などから情報を得て大きな環境の変化が無いようにしている。体調についても担当医と連携を図っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日のスケジュールの沿って声掛けをし、各入居者に担当を決め反応や行動、表情などを観察し記録している。作業を提供し能力の見極めを行っている。バイタルチェックも定期的に行い身体状態の把握にも努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人家族の希望やアセスメントに沿って計画作成し確認を取っている。毎月モニタリングを行い職員間で話し合い計画の見直しに活かしている。 | ケアマネジャーは毎月モニタリングを行っている。約半年に1度担当者会議を開いて、本人、家族、職員の意見を聞きながらケアプランを作り直している。状態変化時には随時作り直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一日の様子は時間を追って記録に残している。特別な出来事や気づき、状態変化は詳しく記録に残している。特に注意したい事や継続したい事は別記し申し送りを行う。毎朝ミーティングを行っている。毎月の職員会議でも話し合うようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 各入居者の状態や要望に合わせた援助をするようにしている。リハビリや趣味の講座に他施設に定期的に出かけたり、行きつけの美容院に出かけたり、希望を聞き外出や外食などを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行きなれた店、スーパー、大野朝市などに日々買い物に出かけ、大野の観光地に足を運んでいる(特にイベントがあるときには出かけている)。散歩に出かけた折には隣接する会社や店の方とも挨拶を交わしている。演芸のボランティアの訪問もあり楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。受診は基本的に家族が付き添うが、かかりつけ医への情報提供や受診結果は看護師が電話や情報提供書で確認している。家族が受診に付き添えない場合は職員が付き添っている。 | 基本的に希望するかかりつけ医を家族と一緒に受診する。受診結果は家族から報告を得ている。家族対応が困難な時は職員が同行し、結果を家族に報告している。受診の際は医師に健康観察表等書面で情報提供を行うか職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が配置されており状態の報告、相談がなされている。状態の変化に応じ医療機関に相談したり、受診したりしている。医師の指示に従い処置なども行っている。24時間連絡が取れる体制になっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供を行い日頃の状態を理解していただくようにしている。入院中も家族や病院関係者と連絡を取り把握に努めている退院時にはカンファレンスに出席し退院後のアドバイスや指示を得ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化および終末期の対応や看取りに関するマニュアルを作成し、勉強会等で共有している。契約時に本人や家族に事業所の方針を伝え希望に沿うように説明している。 | 看取りに関するマニュアルを作成しており、契約時に重度化時や終末期には希望があれば対応することを家族に説明している。実際に看取りを行ったことはまだ無い。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時に備え家族の連絡先、搬送先の確認を得ている。また、職員間でマニュアルに沿い手順を確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の指導の下、避難訓練を年2回実施している。マニュアルや連絡網を作成し、非常時用の食料や水を備蓄している。 | 年に2回、消防署の協力を得て火災、地震災害を想定した避難訓練を実施している。夜間想定も実施している。災害時には、近くに住む職員や併設の事業所から応援を得る体制を整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人に合った言葉掛けや対応を心がけている。誇りやプライバシーを損ねるような言動には職員間で注意し合っている。書類は施錠可能な書庫に保管してある。 | 法人で接遇研修を実施し、受講している。排泄誘導時等は特に利用者のプライバシーに注意している。また、日頃から本人が意思決定できるよう、尊重した言葉遣いをするよう配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望が表せるようコミュニケーションをとり信頼関係を築くようにしている。自己決定できるように時間をかけて支援するように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れは決めてあるが、その日の状態や個々のペースを尊重し、本人の望む過ごし方が出来るように対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 寝まきで一日過ごさないように身だしなみに気をつけている。本人のお気に入りのファッションを尊重し清潔でおしゃれに着こなせるように支援している。馴染み理美容室や移動美容室を依頼している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の希望や栄養も考慮し献立を立て買い物から調理まで利用者と共に手作りしている。出来る事を少しでもお手伝いしてもらうようにしている。後片付けも自然に役割分担が出来ている。鍋や鉄板を囲んでの食事も楽しんでいる。 | 利用者の好みや自家菜園の旬の食材等を考慮して職員と利用者が毎日三食の食事を作っている。利用者も毎日の買い物から調理まで参加している。利用者個々の湯のみを用意している。ケーキ作りなどの行事食も多く行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者の好みや摂取状況、嚥下能力、制限食など個々の状態に合わせ安全に食事や水分が摂れるよう配慮し、水分不足の予防にカップの大きさや回数など工夫している。認知症や便秘、風邪予防としてココナッツオイルやしょうがレモンティー、R-1なども取り入れている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者にあわせ口腔ケアをしている。居室に歯ブラシや義歯カップを置き本人の出来るところは極力していただき出来ない部分は援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しながらオムツ使用者も可能な限りトイレを利用できるよう支援している。 | 排泄チェックシートで利用者の排泄パターンを把握し、排泄自立の継続に向けた誘導や介助を行っている。排泄の支援の際は自尊心を傷つけないように配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の影響について理解し、毎日チェック表で管理することで入居者個々に対応している。水分量や食事にも配慮し、毎朝のヨーグルトやヤクルトなどを取り入れている。また、便秘対策に有効な情報を多くに取り入れ工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に週3回としているが希望や体調に応じて柔軟に対応している。個浴で羞恥心や恐怖心に配慮して支援している。また入浴を拒否する入居者には無理強いをせず時間をずらしてその気になった時点で入浴していただいている。 | 入浴は週2回を基本としているが、利用者の要望に応じて臨機応変に回数を増やすこともできる。入浴を拒否する利用者には時間や曜日を変えるなどして対応している。入浴剤や薬草湯など入浴を楽しむ工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の習慣に合わせて居室の環境を整えている。生活リズムを整えることは重要と考えるため時間で声掛けはするが、起床時間や就寝時間、昼寝の習慣など個々に合わせている。空気清浄機、冷暖房など気持ちよく過ごせる様配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報をファイリングし情報を共有している。確実な服薬が出来るように看護師が中心になり管理している。状態に変化が出た場合は速やかに主治医に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活上の家事については出来る事、得意な事で役割分担されている。お互いに感謝の言葉掛けをすることで作業のやりがいにつながっている。嗜好品や楽しみなど日々会話しながら希望に沿うようにしている。笑いがたくさんある会話を心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や地域行事、季節の花見、夕食、前庭での外気浴や体操等を行い気分転換やストレス発散を行っている。食材の買出しも地域の商店に入居者と共に出かけている。年間に4～5回の遠出ドライブにも出かけ楽しんでいただいている。 | 食材の買い物や、近所への散歩、喫茶店に日常的に出かけている。花見やふるさと訪問等のドライブ外出を年間計画として行っており、外出計画・活動状況については、毎月の便りで家族へも報告している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持つ事で安心される入居者には管理能力に応じ小額を所持してもらい、買い物をしたい方は施設側で管理し買い物してもらっている。個人のお金を使う場合は必ず家族に報告している。原則個人のお金は預かることはしていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じ電話ができるようにしている。あらかじめ家族に連絡可能な番号や時間帯は聞いておくようにしている。手紙やはがきのやり取りは大いに行けるとよいと考えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 2つのユニットが中央ホールでつながっており自由に行き来ができる。みんながホールに集まって食事や団らんレクリエーションを楽しんでいる。季節の飾り物を作り玄関や中央ホール、廊下に飾り季節感を取り入れている。居心地良く過ごせるような工夫をしている。 | テラスの窓から明るい日差しが差し込み暖かく見晴らしが良い。広々とした田畑や山々を眺めることができ、安らげる空間となっている。2ユニット共有のリビングには床暖房を設備しており、快適である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルは必要に応じ形や数を変えられ、個々の椅子があり自由に移動できる。ソファでくつろぐ方もいる。畳の間にコタツを置きゆつくりできるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にクローゼット、ベット、テーブル、ソファが設置されている。使い慣れた物や写真など家族に持ち込みをお願いし、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。生活習慣に合わせ畳の部屋にしている方もおられる。 | 洋室で木調のベッドと家具、洗面所を設置し温もりのある居室となっている。利用者の使い慣れた家具や思い出の写真や品物が置かれ、その人らしい居室となっている。ベッドと畳、布団は選ぶことができる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーで手すりを設置し安全に配慮している。入居者の身体機能に合わせた見守り声掛け、介助をしている。安全で出来るだけ機能を落とさないで自立した生活が送れるよう支援している。トイレや各居室には手作りのネームプレートを設置し分かりやすくしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1890500083 | | |
| 法人名 | 医療法人 厚生会 | | |
| 事業所名 | グループホームさくら日和(ユニットわかば) | | |
| 所在地 | 福井県大野市中津川32-33 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 27年 10月 24日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福井県福井市光陽2丁目3番22号 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年11月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的で活気あるグループホームを作るため、2ユニット間の仕切りを無くし日光が入る大きな共有スペースを設けています。それにより入居者間や来訪者など多くの方々と交流できています。また、隣接する同グループのデイサービスとの交流や地域行事にも積極的に出かけ活気ある生活を送っています。医療的ケアとして、職員に看護職員を配置し、同グループにある24時間対応可能な訪問看護ステーション、医療機関との医療連携を行っています。医療連携により医療依存度の高い方の受け入れや、入居者が終末期となった場合にも住み慣れたグループホームの生活を続けられる体制を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(ユニットさくらと同様)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念に基づき職員全員で作成した事業所独自の理念を玄関に掲げ、職員は常にこれを意識して支援にあたっている。また職員一人一人の個人目標を設定し、日々のケアの振り返りやカンファレンスを通じて理解を深めている。 | (ユニットさくらと同様) | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事に積極的に参加する他、さくらグループの祭りには地域住民にチラシを配り大勢の方が来られる。さくらグループの職員が地域の婦人会に認知症に関する研修の講師として出席している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | さくらグループの職員が地域の祭りに毎年参加し健康相談や介護相談を行っている。施設見学に来られた方などへの介護相談も行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員として区長、民生委員、入居者家族、市職員を招き2ヶ月ごとに開催している。会議では入居状況や活動内容を報告し積極的な意見交換を行っている。また、委員から地域の情報を得て日々の活動に反映している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に留まらず、困難事例などについて気軽に相談できる関係を開設当初から築いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は身体拘束の弊害について理解しており、身体拘束のないケアを実践している。玄関や居室の施錠は一切していない。入居者個々の行動を理解し、言葉かけや見守りを行っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に関する研修に参加し学ぶ機会を作っている。言葉使いや介助方法に至るまで十分に注意し虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 開設後から研修機会に恵まれていないが、研修に積極的に参加する予定。責任者、管理者、個々の職員は前職場にて研修を受けている者もいる。家族等からの相談にはのっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご家族様には十分に説明し、ご理解のうえ同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の中で入居者の声を話している。各委員に意見や要望をお聞きして運営に反映させている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月行う職員会議や日々の申し送り等で情報交換や意見交換を行い運営に反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の自己評価、管理者評価を行うとともに職員個々と面談し職員の意向を確認している。それ以外にも個々の相談は柔軟に受け入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画を立て全職員が参加できるようにしている。研修参加者は報告書を書き職員会議で発表してもらいスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 厚生会グループ内での会議や勉強会、グループ内事業所へ職員を派遣して研修するなどして質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者が不安や困っていることは、よく傾聴して安心していただけるよう努めている。また馴染みのある物を家から持って来てもらうよう家族にお願いしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前カンファレンスを行い本人の状態や状況、家族の思いを理解する。入居後は面会時などに生活の様子や活動内容をお話して安心、信頼関係が築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居申し込み時点で相談に乗るようにし、必要に応じた他サービスの説明や介護相談に乗るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は入居者一人一人の出来ること、やりたいこと、好きなことを把握して日常生活の上で必要な掃除や洗濯、買い物や食事作りなど協力しあい行っている。手伝って頂く際には、「お願いします、ありがとうございます」と声を掛け信頼関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者のほとんどの家族が頻繁に面会に来られることが本当に嬉しい。楽しい時間が過ごせるよう配慮させていただき、遠方の家族には電話で話す機会を持つようにしている。日々のことを月ごとにまとめ写真を添えて報告するようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前の生活の延長となるように、以前に利用していたデイサービスや馴染みの美容室へ出かけ、人や場所との繋がりを大切にしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 居室に居る事が少なく皆さんホールで過ごす事が多く、体操やレク、外出、行事、物作りなど企画し誘っている。とても楽しそうに過ごされている。仲の良い者どうし居室でお話していることもある。トラブルには仲裁に入り早期に解決するよう心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も引き続き相談にのることをお伝えしている。また、次の施設担当者やケアマネとも連携を図っていくようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時に本人や家族の希望や意向を聞いている。入居者の生活歴や性格などを把握し、思いを聞いたり言動から思いをくみ取るように努め、自分らしく心地よい生活を送ってもらえるよう援助している。入居者個々に担当職員を決めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や前任のケアマネージャー、サービス事業所などから情報を得て大きな環境の変化が無いようにしている。体調についても担当医と連携を図っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日のスケジュールの沿って声掛けをし、各入居者に担当を決め反応や行動、表情などを観察し記録している。作業を提供し能力の見極めを行っている。バイタルチェックも定期的に行い身体状態の把握にも努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人家族の希望やアセスメントに沿って計画作成し確認を取っている。毎月モニタリングを行い職員間で話し合い計画の見直しに活かしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一日の様子は時間を追って記録に残している。特別な出来事や気づき、状態変化は詳しく記録に残している。特に注意したい事や継続したい事は別記し申し送りを行う。毎朝ミーティングを行っている。毎月の職員会議でも話し合うようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 各入居者の状態や要望に合わせた援助をするようにしている。リハビリや趣味の講座に他施設に定期的に出かけたり、行きつけの美容院に出かけたり、希望を聞き外出や外食などを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行きなれた店、スーパー、大野朝市などに日々買い物に出かけ、大野の観光地に足を運んでいる（特にイベントがあるときには出かけている）。散歩に出かけた折には隣接する会社や店の方とも挨拶を交わしている。演芸のボランティアの訪問もあり楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。受診は基本的に家族が付き添うが、かかりつけ医への情報提供や受診結果は看護師が電話や情報提供書で確認している。家族が受診に付き添えない場合は職員が付き添っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が配置されており状態の報告、相談がなされている。状態の変化に応じ医療機関に相談したり、受診したりしている。医師の指示に従い処置なども行っている。24時間連絡が取れる体制になっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供を行い日頃の状態を理解していただくようにしている。入院中も家族や病院関係者と連絡を取り把握に努めている退院時にはカンファレンスに出席し退院後のアドバイスや指示を得ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化および終末期の対応や看取りに関するマニュアルを作成し、勉強会等で共有している。契約時に本人や家族に事業所の方針を伝え希望に沿うように説明している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時に備え家族の連絡先、搬送先の確認を得ている。また、職員間でマニュアルに沿い手順を確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の指導の下、避難訓練を年2回実施している。マニュアルや連絡網を作成し、非常時の食料や水を備蓄している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人に合った言葉掛けや対応を心がけている。誇りやプライバシーを損ねるような言動には職員間で注意し合っている。書類は施錠可能な書庫に保管してある。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望が表せるようコミュニケーションをとり信頼関係を築くようにしている。自己決定できるように時間をかけて支援するように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れは決めてあるが、その日の状態や個々のペースを尊重し、本人の望む過ごし方が出来るように対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 寝まきで一日過ごさないように身だしなみに気をつけている。本人のお気に入りのファッションを尊重し清潔でおしゃれに着こなせるように支援している。馴染み理美容室や移動美容室を依頼している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の希望や栄養も考慮し献立を立て買い物から調理まで利用者と共に手作りしている。出来る事を少しでもお手伝いしてもらうようにしている。後片付けも自然に役割分担が出来ている。鍋や鉄板を囲んでの食事を楽しんでいる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者の好みや摂取状況、嚥下能力、制限食など個々の状態に合わせ安全に食事や水分が摂れるよう配慮し、水分不足の予防にカップの大きさや回数など工夫している。認知症や便秘、風邪予防としてココナッツオイルやしょうがレモンティー、R-1なども取り入れている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者にあわせ口腔ケアをしている。居室に歯ブラシや義歯カップを置き本人の出来るところは極力していただき出来ない部分は援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しながらオムツ使用者も可能な限りトイレを利用できるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の影響について理解し、毎日チェック表で管理することで入居者個々に対応している。水分量や食事にも配慮し、毎朝のヨーグルトやヤクルトなどを取り入れている。また、便秘対策に有効な情報を多くに取り入れ工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に週3回としているが希望や体調に応じて柔軟に対応している。個浴で羞恥心や恐怖心に配慮して支援している。また入浴を拒否する入居者には無理強いせず時間をずらしてその気になった時点で入浴していただいている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の習慣に合わせて居室の環境を整えている。生活リズムを整えることは重要と考えるため時間で声掛けはするが、起床時間や就寝時間、昼寝の習慣など個々に合わせている。空気清浄機、冷暖房など気持ちよく過ごせる様配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報をファイリングし情報を共有している。確実な服薬が出来るように看護師が中心になり管理している。状態に変化が出た場合は速やかに主治医に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活上の家事については出来る事、得意な事で役割分担されている。お互いに感謝の言葉掛けをすることで作業のやりがいにつなげている。嗜好品や楽しみなど日々会話しながら希望に沿うようにしている。笑いがたくさんある会話が心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や地域行事、季節の花見、外食、前庭での外気浴や体操等を行い気分転換やストレス発散を行っている。食材の買出しも地域の商店に入居者と共に出かけている。年間に4～5回の遠出ドライブにも出かけ楽しんでいただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持つ事で安心される入居者には管理能力に応じ小額を所持してもらい、買い物をしたい方は施設側で管理し買い物してもらっている。個人のお金を使う場合は必ず家族に報告している。原則個人のお金は預かることはしていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じ電話ができるようにしている。あらかじめ家族に連絡可能な番号や時間帯は聞いておくようにしている。手紙やはがきのやり取りは大いに行けるとよいと考えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 2つのユニットが中央ホールでつながっており自由に行き来ができる。みんながホールに集まって食事や団らんレクリエーションを楽しんでいる。季節の飾り物を作り玄関や中央ホール、廊下に飾り季節感を取り入れている。居心地良く過ごせるような工夫をしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルは必要に応じ形や数を変えられ、個々の椅子があり自由に移動できる。ソファでくつろぐ方もいる。畳の間にコタツを置きゆつくりできるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にクローゼット、ベット、テーブル、ソファが設置されている。使い慣れた物や写真など家族に持ち込みをお願いし、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。生活習慣に合わせ畳の部屋にしている方もおられる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーで手すりを設置し安全に配慮している。入居者の身体機能に合わせた見守り声掛け、介助をしている。安全で出来るだけ機能を落とさないで自立した生活が送れるよう支援している。トイレや各居室には手作りのネームプレートを設置し分かりやすくしている。 | | |